

砺波市美術館館長 新年のご挨拶

「とりあえず歩く」

砺波市美術館館長 山本 仁史



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

ご縁があって美術館の館長となり、9ヶ月余たちました。教育長と兼任ということで館長としての任務を十分に果たしているか、と思うと少し不安であります。

ただ、おかげさまで今まで行くことのなかった展覧会や様々な分野で活躍されている作家の皆様との出会い、これらはとても新鮮でした。ちょうど、目の前に

あるたくさんのドアをあけ、外にあるき出し、今までとは違う世界を見ているような感じです。

それにつきましても、美術の世界は幅広い。絵画、書、写真など主としての平面表現、工芸や彫塑などの立体表現、そして音楽や芸能などの異分野とコラボした作品などなど。従来にはなかった表現方法や作品が次から次へと発表されています。ですから、それらについて「受け止めるのは鑑賞者」と言われても、正直なところ食傷気味であり、ついていけない気分でもあります。だからこそ、「自分」をしっかりとって、「自分なりに」と励ましていただくのですが、これもまた正直なところ疲れます。

さてさて「想定外」という「想定内」がどんどん拡大する時代において、どうふるまうべきか、「とりあえず」歩いてみようと思います。

本年もどうぞ宜しくお願い致します。

砺波市美術館 企画展

館蔵品展

砺波市美術館学芸員 杉本 積



青山三郎「森の番人」



五島通弘「溝立て」



藤森兼明「征子の像」



藤田和十「天明 (A)」

砺波市美術館では、1997年の開館前から郷土作家の作品を中心に収集を始めました。それから、現在までに日本画、洋画、版画、素描、立体造形、工芸、書、写真の他資料を含め1600点を超える多様な作品を購入、寄贈によって収蔵しています。その中には、「となみ野美術展」で砺波市が買い上げた作品も含まれています。

今回の館蔵品展では、学芸員の4名が、絵画、彫刻、版画、写真分野の収蔵品から独自の視点で選び出し紹介します。会場では、あまり常設展示室で出品されない作品も展示しますので、お楽しみください。

■ 会期 令和2年1月11日(土)～2月23日(日)

■ 観覧料 無料

※1月20日(月)、27日(月)、2月10日(月)、17日(月)は施設点検のため休館

となみ芸術文化友の会

友の会だより第47号 2020年1月

[発行] となみ芸術文化友の会事務局(砺波市美術館内)

〒939-1383 富山県砺波市高道145-1 ☎0763-32-1001

新年のご挨拶

となみ芸術文化友の会会長 谷口 美都江

謹んで新年のお慶びを申し上げます。旧年中は大変お世話になりました。今年もどうぞ、よろしくお願い致します。

砺波市の美術館や文化会館の催し物、総会後のコンサート、秋の研修旅行等、広く内外の芸術文化を愛好し、親睦を深めるとなみ芸術文化友の会(友の会)が発足して二十年程が経ちました。創設以来友の会を導き、支えてこられた方々の情熱とご尽力に心から敬意を表しております。

私は、若い頃はよく奈良や京都、その他の地域を歩き回る旅をしておりました。夏の炎天下を山道も街の中も歩き、汗と埃にまみれた結構ストイックなものでした。勉強しております古典文学の中の旅の過酷さに、少しでも近づきたいという思いがあつてのことでした。

そうした旅の中で自然の豊かさや奥深さを知り、また、神社、仏閣、美術館等を訪ねたそれらの思い出が現在の私の糧となっています。年齢がいった今も理想は若い頃のような旅なのですが、現実なかなかそうもいきません。

友の会の研修旅行は、国宝や著名な作家の展覧会等を中心に企画され、現地までバスで連れて行ってくれます。行く先々での昼食は豪華で、参加した方たちと歓談しながらいただくと一層おいしさが増します。夕食を兼ねた懇親会は和気あいあいとして楽しく、私は友の会に入会して新しい楽しみ方を知りました。

伝統のある友の会ですが、私も含めて高齢化が進んでいます。幅広い年代の方々に楽しく有意義な会となりますよう心掛けて参ります。ご入会・ご参加をお待ち致しております。

大伴家持 ^{あらた} 新しき年の初めの初春の ^{よごと} 今日降る雪のいやしけ吉事

越中国守から因幡(鳥取県)の国守となった42歳の伴家持が、天平宝字3年(759年)正月の宴で詠んだもので、「万葉集」の最後の和歌です。

正月の大雪は豊年の瑞兆と考えられていました。降り積もる雪のように良いことが重なってほしい、という思いが込められています。

令和2年良い年でありますように。



となみ芸術文化友の会研修旅行

「カラヴァッジョ展と名古屋城本丸御殿を観る旅」

友の会会員 柳田 由紀

■ 日程 令和元年11月6日(水)～7日(木)

■ 見学先 メナード美術館／名古屋市美術館／名古屋城本丸御殿／ヤマザキマザック美術館／岐阜現代美術館

令和元年度の砺波芸術文化友の会の研修旅行は、
天気に恵まれ、興味をそそられる研修地、おいしい
食べ物と心地よい温泉と、今思い出しても笑みがこ
ぼれるような2日間となりました。

ここでは、個人的な好みでメナード美術館と名古屋
市美術館の「カラヴァッジョ展」を取り上げます。

小牧市にあるメナード美術館は、展示室が5つの
小さな美術館ですが、最初の展示室のドアを開けると
舟越保武、桂親子の彫刻作品が出迎えてくれます。



また、マリノ・マリーニの「馬と騎手」のユーモラスな作品も心に残ります。それぞれの展示室
には、洋画、日本画、工芸の各分野の逸品が展示してあり、その中で印象に残ったのは、小磯良平
の「競馬場にて」です。競馬場の群像を薄い色彩で描いた作品で、今にも人物が動き出しそうで、
しゃれた感じがします。もう一点は、奥谷博の「鰻と針千本」です。説明には、「具象を突き詰め
ていけば抽象になる」とあり、魚や貝殻がオレンジ系の色でまとめてあります。南砺市の作家さん
のカミキリムシやカレイの絵を連想しました。ミュージアムショップも素敵でした。世界の名画を
モチーフにした小物が多く、リーズナブルなお値段でつつい手にとってしまい、付箋と来年のカ
レンダーを購入しました。

次の研修地は名古屋市美術館です。企画展「カラヴァッジョ」を見学しました。企画展の名称に
「天才画家の光と闇」と付いているように、暗く不気味な絵が多く、会員の皆様にもあまり好評では
なかったようでした。

しかし、思い返すとあの底無しのような黒い画面や生々しいモチーフが浮かびます。一人の画家
が苦しみながら・もがきながら、あの絵を描いたと思うと忘れられない展覧会となりました。

日常から離れた心地よい時間を過ごしました。



メナード美術館



名古屋市美術館

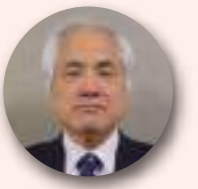


名古屋城

砺波市文化会館 地域の皆さんと一緒に創る市民参画事業のご案内

ごあいさつ

館長 小幡 豊



あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

砺波市文化会館では、本年も市民の皆様が気軽に文化に触れ、参加し、支え、
みずから創作活動できるように努めるとともに、次の時代を担う子どもたちの鑑賞、体
験、創造活動を推進していきたいと思っています。

今回は、その具体的な催し物として、「となみの合唱祭」とオリジナルミュージカル「森はうたう」
をご紹介します。

砺波市合併15周年記念事業

となみの合唱祭Ⅲ - 散居に紡ぐ未来への「合唱創造」 -

チケット
発売中!



令和2年

2月2日(日)

14:00開演(13:30開場)

■ 全席自由(税込)

一般/前売2,000円(当日2,500円)

小・中・高校生/前売500円(当日700円)

未就学児入場無料(保護者同伴)

当館では、平成29年度から3ヶ年にわたり「合唱の感動を地域の人々とともに」をテーマに、
「合唱創造となみ」事業を実施しています。集大成となる本年度は、作曲家三宅悠太氏に委嘱
した初演作品「いのちへのオマージュ」をオーケストラ・アンサンブル金沢の演奏とともに子供から
大人まで世代を超えて合唱します。合唱力の魅力をこの機会に是非お楽しみ下さい。

砺波市合併15周年記念事業

オリジナルミュージカル「森はうたう」

チケット
発売中!

ある日、森に迷い込んだ王女クレアが、そこで自分そっくりな少女エレンと出会い、

姉妹のように仲良くなった二人が、互いに聞き覚えのある同じ歌を口ずさむ。

そして、二人の歌声は風に乗って森に木霊し、遠い記憶の中に失われた愛と絆が甦る。



令和2年

3月7日(土) | 3月8日(日)

18:30開演(18:00開場) | 13:30開演(13:00開場)

■ 指定席(税込)

前売1,500円(一般・高校生以下共通)

■ 自由席(税込)

一般/前売1,200円(当日1,500円)

高校生以下/前売500円(当日800円)

「となみミュージカルキッズを応援する会」と砺波市文化会館は、来たる令和2年3月7日
と8日の両日、オリジナルミュージカル「森はうたう」を公演します。

今年も、子どもたちがひたむきに歌い、踊り、演じます。是非ご覧下さい。